

行政視察等報告書

令和 6 年 10 月 15 日

知立市議会議長 山崎りょうじ様

報 告 者	中島 清志（篤心会）
日 時	令和 6 年 10 月 9 日（水）・10 日（木）
視察（研修）場所	トーサイクラシックホール岩手
目 的	第 19 回 全国市議会議長会研究フォーラム
（概 要） テーマ 「主権者教育の新たな展開」 ≪10 月 9 日（水）≫ ■パネルディスカッション 「地方議会の課題と主権者教育」 コーディネーター 井柳 美紀 氏 静岡大学人文社会科学部法学科教授 パネリスト 土山 希美枝 氏 法政大学法学部教授 越智 大貴 氏 一般社団法人 WONDER EDUCATION 代表理事 渡辺 嘉久 氏 読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局 遠藤 征幸 氏 盛岡市議会議長 【コーディネーターの井柳 美紀 氏からの問題提起】 「主権者教育の新たな展開」として、地方自治法改正も踏まえつつ、投票率の低下、無投票当選の増加、議員の性別や年齢構成の偏りなどの課題を抱える地方議会は、議会に対する関心を高め、理解を深める主権者教育を一層推進することが必要であり、出前講座や模擬議会など、議会自らが主体的に主権者教育に取り組む事例が広がっていると発言。教育基本法の「政治的教育」について昭和 44 年の通知で「教師の個人的な見解や主義主張が入り込む可能性があるので慎重に取り扱うこと」としていたものが、平成 27 年の通知では「現実の具体的な政治的事業も取り扱い、生徒が国民投票の投票権や選挙権を有するものとして自らの判断で権利を行使することができるよう、具体的かつ実践的な指導を行うことが重要」と変化してきたことを紹介し、今、主権者教育の新たな展開が必要な時期となっている。と提起された。 【パネリストからのコメント①：土山 希美枝 氏】 「誰がための主権者教育か」をテーマに、主権者教育の主体は、学校や教育委員会であり、議会はその主体や学生とどう連携するかであるから、「議会」が「主権者教育」をしていると発信する事はやめないか？と発言。知立市などで取り組まれている「高校生議会」での議員との直接の語らいは学生の刺激となることは認めるが、「高校生に高校生議会の感想を朗読してもらい⇒大人の側からのコメントで締めくくる」のでは、「教え育てる」ことにはならない。学校側の「議会」を使った教育プログラムの存在、議会側は高校生を若き有権者として受け止め、その声をどう政策に活かすかなど、関係者の真摯な取り組みが欠かせないとコメント。	



【パネリストからのコメント②：越智 大貴 氏】

「若者の政治・社会への意識から考える主権者教育の必要性」をテーマに、「WE CITY」「こどもワークショップ」「こども議会」など13年間の主権者教育の取組を紹介。その中で見てきたこととして、「若者は政治や社会に関心が無いわけではなく、参加しても意味が無いと思っている。意見を聞いてもらえる、反映してもらえると感じられる機会を増やす必要がある」「学校現場における主権者教育において、政治的中立への過度な配慮があるので、議会は学校でもリアルな政治を扱いやすいように超党派で対応チームをつくるなど、役割を果たせる」「政治家との交流は、こども達の政治意識の醸成に大きく影響する」などとコメント。

【パネリストからのコメント③：渡辺 嘉久 氏】

取材経験の中で、高校生に取材を実施したとき、「政治の事を知らないので、間違っではいけないから、投票に行けない」との声があったと紹介。正解は一つと限らないのだから、「自分の希望する未来を考えてくれる人を選んではどうか？」と話したと、高校生や若者に「政治」は「未来」、「政治とつながる、政治を考える」ことは「自分の未来を創造する」ことになる伝えていくことが大切だと感じているとコメント。

【パネリストからのコメント④：遠藤 征幸 氏】

「盛岡市議会の取組」を紹介。高校生議会を平成29年7月に初めて開催して以降、令和4年までで4回開催したほか、盛岡地域の大学に議員が出向き学生と意見交換を行う「もりおか mirai おでかけミーティング」を平成30年、令和4年と開催したとのこと。高校生議会に参加した高校生からは「市政に関心を持った」「議会の役割が理解できた」などの感想が寄せられたとコメント。

《10月10日（木）》

■課題討議「主権者教育の取組報告」

コーディネーター	河村 和徳 氏	東北大学大学院情報科学研究科准教授
事例報告者	白鳥 敏明 氏	伊那市議会前議長
	諸岡 覚 氏	四日市市議会議員（第83代議長）
	服部 香代 氏	山鹿市議会議員

【コーディネーターの河村 和徳から課題提起】

主権者教育の理想と現実の指摘がありました。理想として、主権者教育は、基本的にシチズンシップ教育であるべきであり、地域社会の社会的課題を自ら認識し、経験を含めた形で社会を改善していく力を養う方向にもっていくべきだが、社会には多様な意見があり、多様な意見があることを理解することが必要。しかし、現実として、知識の享受が中心で正解を教えようとする、投票者重視（模擬投票）の教育、実施主体（教育委員会、選挙管理委員会等）の連携の不十分さ、などの問題を抱えていると発言される。

【事例報告①：白鳥 敏明 氏 伊那市議会「高校生の議会傍聴と意見交換会の取組」】

伊那市では平成30年の市議会議員選挙が無投票となったことで、議員のなり手不足に危機感を感じ、6月には全議員参加の「魅力ある議会づくり検討会」を設置。そして、若い人に議会への関心を高めるために、特に高校生を対象に議会傍聴、意見交換等の企画を決定。その後に生徒と議員の小グループに分かれた意見交換会を設定。議員の感想は「高校生の真剣に取り組む姿に感動した」「声を直接聞ける良い機会。今後も積極的に行っていきたい」、高校生の感想は「話しているうちに自分の意見を言うことができ、市のことをよく知ることができた」「議員さんに親身に話を聞いてもらえ、アドバイスももらえた」「将来、政治家になりたいと思った」など、双方とも肯定的なものとなった。また、意見交換をきっかけに高校生から請願書や要望が出されるなど市政への参加意識が高まったとの報告があった。

【事例報告②：諸岡 覚 氏 四日市市議会「ワイ！ワイ！G I K A I」】

四日市市以前から開かれた議会として市民向けに「シティーミーティング」を実施してきましたが、回を重ねるごとに参加者が固定、減少してきたので、令和4年から「ワイ！ワイ！G I K A I」を実施。内容は、各常任委員会が四日市市内の中学校・高校・大学に出向いてテーマをもとに意見交換を行うもの。将来的には各種業界団体、各種労働組合など幅広い対象との交流を目指したいとのこと。また、四日市市では高校生議会も開催しており、開催方法はテーマごとに委員会に分かれ、意見交換を行い、本会議場で意見書の採択を行う事例もあるとの報告があった。

【事例報告③：服部 香代 氏 「山鹿市議会が取り組んだシチズンシップ教室」】

山鹿市では「開かれた議会になっていない」「住民の理解と関心が得られていない」「議員のなり手不足」などの課題を感じ、また、議員のスキルアップが必要であるとして、議会とし小学校でのシチズンシップ教室を開催している。伝える内容は次の3点、「市議会について知る」「議員の仕事を理解する」「選挙の意義や、投票の大切さがわかる」。実施にあたっては教育委員会、学校、選挙管理委員会などと協議し、教材として使う絵本「ポリポリ村のみんなしゅしゅぎ」の読み聞かせボランティアとして市民の参加も得ている。参加している子どもたちからは「議員の仕事がわかった」「投票には興味がなかったけど、投票の大切さを知った」「議員の仕事をしてみたいと思った」など、議会への理解が深まったとの反応があり、議員の側も職責の重さを再確認できたという感想もあった。参加した市民ボランティアからは「議員の努力が見えた」「自分たちも選挙の意義や議員の仕事が理解できた」との反応があり、子ども以外にも波及効果が大きかったとの報告があった。

【所感、知立市政への反映に向けた課題等】

文部科学省の資料によると、我が国の憲法は主権が国民に存することを宣言している。主権とは、国の在り方を決める力であり、我が国においては、国民一人一人が主権を有する主権者として、我が国の現在、そして将来進むべき道を決定していく。また、教育基本法では、教育の目的として、人格の完成と国家・社会の形成者の育成を掲げている。主権者教育は、こうした責任ある主権者として我が国の社会を担い活躍していく子供たちに対して、真に必要な資質・能力を育成していくことを目指すものである。言い換えれば、主権者教育は、子どもたちがこの日本という国で、大人として生き、そして国家・社会の形成に参画し、その発展につなげる上で必須のものである。今回の視察のうち、パネルディスカッションでは、地方議会選挙における投票率は低下の一途をたどり、無投票となる選挙も現状の中で、若者が政治に関わるのが重要。18歳の若者に調査したところ、政治に関心がないから選挙に行かないというよりも、どうせ変わらないと思っていること、その一方で地域社会の役に立ちたいと思っているということがわかりました。若者は、「どうせ変わらない」と思っていることに対して自分たちが言った意見で、議会が動き、行政が対応する。自分たちの意見で課題が解決し、まちが変わると思えば、政治が身近になり、投票行為につながるわけになるのではないかと感じました。主権者教育というと、高校生議会とか模擬投票などが事例として、良く紹介されますが、それもちろん大事だと感じるが、今回の研究フォーラムで一番大事だと思ったのは、自分たちの意見で何かが変わること、いかに若い人たちに実感させられるかという事ではないか。今回の研究フォーラムで多くの取組に共通していたのは、中学生、高校生、大学生との意見交換でした。それを積み重ねることで、議会や議員との距離が近くなり、結果として政治や行政に興味がわくということにつながると思います。知立市議会が進めている高校生議会もその一つであり、大変重要なことである。子どもたちが大人となり、主権者として自らが暮らす社会をより良いものに変えていくための解決策を考えるためには、まず現在の社会の仕組みを正

しく知らなくてはならない。正しく知るとは、その名称や現象を表層的に理解することではない。世の中にあるすべての仕組みには成り立ちの歴史があり、世界とのつながりがある。今日の克服すべき憂いには、関連する複合的な要因や過去からの経緯が必ず存在するのであり、解決策を考えるには、世の中の仕組みの姿を多面的・多角的にしっかりと見据えなくてはならない。その時に、民主政治上の制度についての知識や現実の政治状況の理解などの政治的教養のみならず、経済的教養についてもバランスよく身に付けることが必要である。こうした観点から、学校教育においては、子どもたちが現実を深く考察するために必要な基礎的・基本的な知識を確実に身に付けた上で、目の前の政治や経済を身近なものと感じ、誰かがやってくれるだろうという他人任せの意識ではなく、自発的に自分の力で現実の社会的な問題を解決できるという主権者としての感覚を身に付けるようにしていくためにも、知立市議会として、主権者教育の一端である高校生議会を進める意義があると強く感じました。

※報告書は視察（研修）場所ごとに作成してください。

報告書は視察（研修）終了後 1 週間以内に提出してください。